



最後の校歌を歌う在校生と教員。たくさんの思いが巡ります



「うねとりみねの 山あい 白きまなびや 鳥茂小」。思い出多き体育館でそれぞれの思いを胸に校歌を歌いました



鳥茂渡地区の前途を祝して乾杯。音頭は沼田英雄前教育長



「さわやかとりも」と刻まれた記念碑の除幕を行う児童ら。校舎東側に建立されました



左上：閉校のあいさつをする荒谷栄子校長

左：県PTA連合会から感謝状を受け取る高屋敷久人PTA会長

## 校舎活用は 集える場に

式典に引き続き正午からは「思い出を語る会（高屋敷眞作実行委員長）」が開かれました。

参加者の皆さんはそれぞれの学校生活を振り返り、最後に出席者全員で校歌を歌い式典を終えました。

最後に児童代表の坂下大介君が「鳥茂渡小学校の良いところや歴史をずっと語り継ぎ、地域の方々への感謝の気持ちを忘れないこと、この素晴らしい地域の結びつきがいつまでも続いていくように僕たちはこれからも頑張りたい」と誓いを述べると会場では時折、すすり泣く声も聞かれました。

産があります。勉強、スポーツに励み、とりもで築いた強い精神力と豊かな心でこれからもたくましく生き抜いていく力を育んでいくと思いません」とあいさつ。

同校は明治11年に創設。開校以来1012人の卒業生を送り出してきました。閉校に伴い、在校生3人は4月から普代小学校へ通います。

オープニングでは児童8人が宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」を披露し、たくさんの拍手に包まれ感動を呼びました。また、会場では思い出話に花が咲いていました。

熊坂伸子教育長は「子どもたちの今と将来の可能性に向けて一番いい教育環境を整えることが大人の責任、寂しさ以上にこの学区ではその思いが強いと感じました。在校生の3人は普代小で伸び伸びと育ってほしいです」と話しました。

高屋敷実行委員長は「3カ月という短い期間で記念誌をつくりました。心がこもっています。いろんな思いがよぎりますが、これからとりも地区が未来に向かって129年目の第一歩を踏み出しましょう。今後の校舎活用は皆さんが集える場にできればと思っています」とあいさつしました。

(次ページへ)